



J. FRONT RETAILING

2018年4月16日

会社名	J.フロント リテイリング株式会社
コード番号	3086
代表者名	代表執行役社長 山本 良一
お問合せ先	経営戦略統括部 I R・グループ広報推進部
TEL	03-6895-0178

## 2018年3月度 J.フロント リテイリング 連結売上収益報告 (IFRS)

### 1. セグメント別売上収益 (対前年増減率：%)

	売上収益(IFRS)		(参考)総額売上高	
	3月度		3月度	
百貨店事業	5.3	(5.6)	3.8	(4.3)
パルコ事業	▲ 1.3		▲ 0.1	
不動産事業	200.4		197.1	
クレジット金融事業	2.6		3.4	
その他	▲ 29.3		▲ 25.9	
連結合計	▲ 3.4		▲ 0.2	

※1 当社は2017年3月から国際会計基準(IFRS)を任意適用いたしております。

※2 従来百貨店事業に含めていた不動産事業は、2017年度から独立したセグメントとして開示しています。またクレジット事業はクレジット金融事業とし、卸売事業、その他事業は「その他」に含めております。

※3 総額売上高

IFRS売上収益のうち百貨店事業と「その他(大丸興業)」の消化仕入取引を総額に、パルコ事業の純額取引をテナント取扱高(総額ベース)に置き換えて算出しております(なおパルコ事業では2017年度から日本基準の売上高を純額ベースで算出する方法に変更しております)。

※4 大丸浦和パルコ店は7月31日の営業終了をもって閉店いたしました。百貨店事業の( )内は、大丸浦和パルコ店を除く既存店ベースの数値。

※5 PARCO\_ya(上野)は2017年11月4日に閉店いたしました。大津PARCOは2017年8月31日の営業終了をもって閉店いたしました。

※6 本年3月から百貨店事業の大丸神戸店周辺店舗のテナントを順次賃貸借契約に変更し、売上を不動産事業に移管しております。

参考数値として、神戸店から不動産事業への移管テナントの前年実績を除いた百貨店事業の既存店ベースの売上収益(IFRS)と総額売上高は、それぞれ対前年5.6%増、同4.2%増。

### 2. 売上収益概況

#### 1) 百貨店事業

- ・ 気温が平年より高く推移したことにより、スプリングコート、ブラウスなど春物ファッションの動きが良かったほか、化粧品、ラグジュアリーブランド、美術宝飾品も売上を伸ばした。  
なお、百貨店事業合計は12ヶ月連続で前年実績を上回った。また大丸松坂屋百貨店合計の免税売上高は対前年70%増(客数60%増、客単価7%増)となった。

#### 2) パルコ事業

- ・ パルコは、月を通して前年より気温が高かったことにより、セレクト型のショップを中心にスプリングコートや羽織ものなどが動いたことに加えて、キャラクター雑貨や化粧品が継続して好調であったものの、全体では、パルコスペースシステムズにおける前年の大型内装電気工事受注の反動減などの影響を受けた。

#### 3) 不動産事業・クレジット金融事業・その他

- ・ 不動産事業は、GINZA SIX(ギンザ シックス)、上野フロンティアタワーの家賃収入が加わり大幅増となった。
- ・ クレジット金融事業のJFRカードは、割賦販売手数料、加盟店手数料などが増加した。
- ・ その他では、卸売事業の大丸興業や人材派遣業のディンプルが引き続き好調であったものの、建装事業のJ.フロント建装における前年大型案件の反動減と株式譲渡した連結子会社の売上減が影響した。

お問合せ先 J.フロント リテイリング株式会社 I R・グループ広報推進部

TEL 03-6895-0178  
FAX 03-6674-7565

## 2018年3月度 百貨店事業 売上高報告（日本基準）

### 1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	3月度	
	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	15.5	18.0
大丸 梅田店	5.3	0.2
大丸 東京店	5.0	▲0.4
大丸 京都店	3.4	▲0.9
大丸 山科店	▲0.7	▲1.4
大丸 神戸店	2.4	▲3.2
大丸 須磨店	▲3.1	▲4.2
大丸 芦屋店	2.2	▲1.2
大丸 札幌店	3.4	▲1.1
松坂屋 名古屋店	1.8	▲3.1
松坂屋 上野店	7.6	44.9
松坂屋 静岡店	0.6	3.6
松坂屋 高槻店	▲2.0	▲1.6
松坂屋 豊田店	▲8.3	▲1.2
<b>大丸松坂屋百貨店合計</b>	<b>4.5</b>	<b>2.1</b>
博多大丸	1.2	▲1.5
下関大丸	6.6	15.1
高知大丸	1.8	0.3
<b>百貨店事業合計</b>	<b>4.3</b>	<b>2.2</b>

※1 合計の前年は、大丸浦和パルコ店(2017年7月31日営業終了)を除く既存店ベースの数値。

前年に大丸浦和パルコ店を含めた3月度売上高の増減率は、大丸松坂屋百貨店合計 対前年4.0%増、百貨店事業合計 同 3.8%増。

※2 参考数値として、大丸神戸店から不動産事業への移管テナントの前年実績を除いた神戸店の売上は、対前年5.9%増、大丸松坂屋百貨店合計、百貨店事業合計の売上は、それぞれ同5.0%増、4.7%増。

### 2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	3月度
紳士服・洋品	5.2
婦人服・洋品	3.6
子供服・洋品	0.6
その他の衣料品	▲6.8
衣料品計	3.2
身回品	▲2.1
化粧品	39.3
美術・宝飾・貴金属	10.5
その他雑貨	▲7.6
雑貨計	24.3
家具	▲6.9
家電	45.4
その他の家庭用品	▲0.3
家庭用品計	▲0.9
生鮮	3.2
菓子	▲0.0
惣菜	▲1.8
その他食料品	▲1.0
食料品計	▲0.1
食堂・喫茶	▲0.4
サービス	▲10.4
その他	▲13.2
合計	4.5

### 3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが好調を持続した。紳士服・洋品は、ジャケットやブルゾンが好調であった。身回品は、婦人靴、ハンドバッグが堅調であったものの、かばん・旅行用品が苦戦した。雑貨は、化粧品が訪日外国人客・国内客ともに好調を持続したほか、高級時計が引き続き動いた。家庭用品は、京都店の催事が寄与したものの、一部店舗における家具の前年反動減が影響した。食品は、上野フロンティアタワーの集客効果により上野店の菓子や惣菜が伸ばし、名古屋店の大型催事が好調であったものの、京都店、神戸店における大型催事の縮小が影響した。